向陽新聞

発行所
高知市春野町97
土佐高等学校新聞部
編集人　利岡邦夫
発行人　岡林敏眞
印刷　高知印刷

高橋寫真館
高知市南播磨屋町
電話三一五八番

疑惑残る中学入試

問題解決は困難

事前に洩れた入試問題

本校にとって初の筆答制併用の本年度中学入学試験でその問題が事前に洩れていたことが、四月二十三日の高知新聞に報道され、在校生、父兄、一般の人々から今後のなりゆきが注目されるところとなった。

これに対し学校側は問題の洩れていたことをはっきりと認めており、誰が洩らしたかを追及するべく連日職員会を開いて対策を協議するなど、あわただしい動きをみせている。

事件の始まりは中学入試の第一日目の三月二十六日の朝、匿名の一市民が電話で試験問題が洩れているといってきたことによる。この電話は事務の西山さんが受けついだが、事の重大さのために、父兄に面接中の校長に渡し、校長が「証拠は？」と聞くと次の日におこなわれることになっていた口頭試験の問題を二、三あげ、筆記試験の問題についてもすこしほのめかしたのである。

そこで学校は職員会をひらき次の日の口頭試験の問題を作り変えてそれによって試験を行ったのである。そしてその後は無事終了して今度の問題は校内の問題として残るかに見えていた時に高知新聞新に大々的に報道された訳である。その内容は次のようなものである

土佐中学校の入試の問題が事前にもれており、学校はその対策に苦しんでいる。また父兄の一部でも疑惑の目をなげているものもある。県教組は近く進学対策委員会へもち込み検討をする準備をしている。

問題になってくるのは誰が洩らしたか、ということと筆記試験の問題ももれていたのではないかということであり、どうして洩れたかという問題については学校長も先生の誰かが洩らしたことはほとんど決定的とみており、生徒の中にもこれ以上残念なことはないという声が多く聞かれる。職員会でもそれを重視し、洩らしたものを追及しているが、同僚間のこととて問題の解決はむずかしいようである。校長の声明によると、不心得者がわかってもわからなくても責任をとって、教務主任と中学主事がその地位を退き平教員となるもようである。なお後任は職員の公選で決める予定。

また筆記試験の問題も洩れていたのではないかと疑うむきもあるが、校長にかかってきた電話では口頭試験の問題だけを詳しく述べたが筆記のほうは問題の題目だけ、それもごくあいまいに云ったので学校では筆記試験の問題は洩れていないとして、すでにくばってあった問題をやらせたものである。

努めよ学園明朗化

在校生

高二某君の話　今となっては仕方がないというものの非常に残念なことだ。一般新聞は筆答試験の問題も洩れていると云っているがその事実の真否はおくとしても、何故あの際試験を中止しなかったかを不思議に思っています。また先生方は 入試の問題 の洩れたことばかりにとらわれているようですが、中間試験や学期試験の問題を特定の人に洩らしている先生もあるそうです。その点についてもこんどのことを機会に糾明するといいと思います。とにかくこれをキッカケに学園の明朗化を促進させたいと思います。

本校現状に失望

高一某君（本年高校に編入）の話　あこがれの土佐高に入ったとたんにこんなありさまでまったくヒカンしてしまいました。試験に合格しなかった人なんかはくやしいことだろうし、ひがんだ人は問題をしらなかったからだなんて思うでしょう。

筆記廃止を要望

言動に矛盾ある縣教組

こんどの事件に対して高知県教員組合は進学対策委員会にかけるなどをして活発な動きを示しており、学校長のもとに再試験の要求をだすなどいろいろと非組合校の本校に対し干渉してきているが、文化部長の浜田昌俊氏は次のように語った。

この事件は土佐中学内で起ったので、教育界におよぼす影響もよく考えて、校内でよく話しあって納得のいくように処理していただきたい。筆記試験にすると不正事件がでたり、小学生が受験の準備のため苦しむから来年度からは絶対に口頭試験だけにしてはどうか。だから入学試験について私立学校長に集ってもらって、よく協議したい。また生徒会は今までこの事件には無関心だそうだが、生徒会も中心となって学園の明朗化に努めてほしい。

しかし筆記試験と今度の事件とは関係のないことはわかりきったことであり、先生にも口頭試験だけならもっと不正なことが行われやすい状態にあることを認めている人が多い。このように県教組の言動には矛盾がみられている。

ひとこと

伝達機関を充実せよ

◇生徒会が「私立高校連合」を結成したり「講堂の名前」を募集したりして〃自分達の学校は自分達の手でよりよくしていこう〃という気運が見られたのは喜ばしい。しかしこれら決議されたことが何一つ示されないのは残念なことである。どうすればこんなことがなくなるだろう

◇これには三つの対策が考えられる。まず第一に生徒諸君が委員会を指導してゆくぐらいの熱意を持つことだ。第二は伝達を十分にすること。四国一を誇る講堂を持ちながら、昨年開いた生徒総会数は、一学期一回、二学期二回、三学期一回である。これでは生徒会と生徒の遊離は無理もないことである。もっと多くの生徒総会を開いて生徒の意見を反映させなくてはならない。もう一つの伝達機関として放送部を思い出すが、今いったい何をしているだろう。昨年度の二学期の生徒委員会で放送企画委員を作って、ハナバナシクやっていたが一ヵ月もたたぬうちに〃全校生徒が聞いてくれないから〃との理由で中止された。それが三学期の委員会では取り上げられず、現在では各部の伝達事項は各クラスの黒板に書き校長訓話ではうしろの方は聞こえないのを知らないだろうか。機械はきちんとなおし、地味ではあるが毎日毎日生徒と委員会の連らくをはかるのが〃放送部の使命〃ではないだろうか。放送部の奮発を切に望む。

◇第三は高三の委員の出席である。会則には「高三は出席しなくてもよい」と書かれているが〃出席してはならない〃とは書いてないはずだ。高校生の三分の一を占め、最上級生でありながら生徒会にはノー・タッチとは実に残念だ。進んで生徒会にも出席しリードしていただきたい。

◇梅木委員長は前途多難ではあるが以上の三つの点を改善して我らが土佐高をさらによき学校にするように望む。（S・S）

委員長梅木君

生徒会四役決る

梅木委員長

田中副委員長

高校三年の修学旅行のため延期されていた生徒委員会も四月二十一日（木）の臨時委員会で委員長梅木栄純君（二K）副委員長田中敦子さん（二K）書記長開徳倫子さん（二S）進行係岡林功君（二O）の四役を決定した。

また第一回の委員会では昨年からもちこされていた講堂の名前が、「向陽講堂」ときまった。これは昨年の高校三年生が「講堂の名前をつけたいが、大島校長が苦労されて建てた講堂だから『大島講堂と名づけてはどうか』と委員会に提案し、そこで委員会は全校生徒から名前を募集して討議した結果、三月二日に「大島講堂」か「向陽会館」のいずれかを決定するため選挙を行い、向陽会館と仮決定していたが「向陽会館」とはおかしいという意見があったので今度の委員会で改正されたものである。

開徳書記長

岡林進行係

生徒諸君に告ぐ

学校長声明

去る三月行った中学校第一学年入学考査の時起った不幸な出来事が、去る四月二十二日夜のラジオ放送及び翌二十三日の新聞紙上により報道せらるゝに及んで、純真なる諸君の心情に暗影を投げかけたであろうことは勿論学校の内外に一大衝動を与えて学校関係者は言うまでもなく一般社会に異常なる配意を煩した事は学校長としての私の責任であり且つその不徳のいたすところで、特に生徒諸君に対しては誠に申訳けなく、玆に深かく御詫をする次第である。不幸発生以来私は私学の自主的立場からその真相糾明に関しては勿論、禍根を一掃するため諸先生と共に日夜精根をつくしてその対策に腐心して来た結果、学校長以下全教職員はこれを起死回生の絶好の機会として強き自省自粛の下に再びかゝる不祥を惹起しないよう最善の方途を講ずることは言うまでもなく、本校創立の精神を再確認し死力をつくして生徒指導の任に当り、各々その職責を完了することによって学園の明朗化を図ると共に生徒諸君として各々その処を得せしめることに努め、これを転禍為福の一大資料として従来社会が本校に期待する教育効果を更に一段と飛躍的に上昇させる責任を痛感し学校長以下全教職員は堅き決意をした次第である。

生徒諸君、諸君はさぞかしこのたびのことで、その純真である諸君の心情を何程か痛めたであろう。諸君は今、夫々の立場に於て最も大切なる修養の途上にあることに鑑み寸時と雖も無意に過す事を許されないのである。私は今度の事を諸君が心にかける余り或は萎縮して修養の妨げになることを最も怖れるのであるが、この際諸君は一切社会の風評には断じて耳を傾けず諸君はあくまで純真なる青年学生であり、特に本校生徒であると言う厳然たる態度を堅持し不幸の出来事に対する一切の処理は学校を信頼して何物にも惑わされぬよう自重自愛を望んで止まない次第である。

主張

先生の自主的解決を望む

中学入試の漏洩問題

新らしい学年がやってきた。中学、高校とも新入生が決定し、高校では生徒委員会の四役もきまり、おおいに今後の活躍が期待されている。

中学の入学試験はことし始めての筆答制併用で、県教組側の反対をおしきって行われたこの入試の問題が事前にもれていたことが四月二十三日付の高知新聞で公にされ世間の注視するところとなった、はじめての筆答制併用だけあって社会にはそうとうな反響をおよぼし、父兄、先輩、在校生の疑惑をたかめることとなった。

校長もこの問題の漏洩を認めている以上、事実にちがいなく当然試験の担当である本校教職員の人格がうたがわれるわけだ。ある先輩は「校長のいわれるように教職員の不注意からこんどの事件が起ったことになると教育者としてあるべからざることだ。私は土佐高の先生にはそういう人は居るとは思えない。それ以外のなんらかの方法で洩れたと信じたい」と言っているように我々は「先生はそんなことはしない」と信じたいのである。

しかし先生とて人間である。いろいろの理由によりつい間違をおこさないとはかぎらない。先生の潔白を信じたくても事情がゆるさない。試験問題の作成は校長の指示のもとに三十名教職員の間でなされ、その印刷まで行われたのであるからまず先生の自覚があればもれる心配はすこしもないはずである。しかるにこんどのことが起ったのである。もう先生の間でも、「知らぬ。存ぜぬ」ではすまされなくなり、毎日のように職員会を開いて、対策をねり校長のもとに情報をもちこんで責任者（問題をもらした人）の発見に努めているようである。

このようにして教職員間でも自粛の声が高まっているが、ただ自粛だけではこんどの問題は解決できそうにない。校長の意図であり、また先輩、在校生の望むように責任者は当然辞職さすべきであろう。そうでなくうやむやならうちにすますことになると、それこそ大変である。「土佐高はこういうことがあったが、積極的な解決がなく、うやむやに終ってしまった」ということになると、ただ土佐高の名誉だけの問題ではなく、教育界全般の大きなマイナスになるであろう。そういうことのないよう学校側はおおいに注意して責任者の調査につとめるべきであろう。調査委員会を組織するとか聞いているがぜひ組織して活発に動いていただきたい。

また責任者とて良心はあるはずである。自分の及ぼした全体への迷惑がいかに大きいかを考えるときっとなにかのかたちで反省があらわれるはずである。いやきっとそうなければならない。戦災から今日のような名実ともにりっぱな学園をうち建てるまでの他の学校の校舎を借っての分散授業、またあの暑い炎天下のカワラ運び、バラック建ての仮校舎で雨もりがバケツに落ちる音を聞きながらの授業を行い、また校長や同窓生、振興会のかたがたのなみなみならぬ苦労を思うとき、自分の身の不覚を痛切に感じないではいられないだろう。あくまでシラをきるよりも、みづから自分の失策を申して自主的に解決をはかった方がどれくらいよいかわからない。我々は先生方の潔白をあくまでも望みたい。しかし万一自分の心のゆるみのためについ今度の問題を起した先生がいらっしゃったならば、我々はその先生に教育者としての自覚を切に望むものである。我々とて土佐高、中の生徒であり、新入生の公正を思わないものがあろうか。我々の学校のためを思えばこそこう言いたいのである。

我々は現在あらゆる面で試験のトリコとなっている。じっさい試験と学生とはなにか目に見えない糸でしばられているかのごとく、学生にはつきものとなってきている。我々は一年に五回、半期、学期末学年と試験があり、また実力試験もよく行われる。そしてこれらに対する先生方の苦労はなみなみならぬものと思われる。また生徒としても試験でやっきとなっていることも事実であり、したがって先生としてもよっぽどしっかりしていないと問題がもれ、公正を欠く場合がおうおうにしてある。じっさいこれまでには半期、学期の試験などでたびたび問題が一部の生徒にわかっていたことがあるようであり、はなはだしきは試験前に問題とその解答が現われたクラスもあり、生徒から学校に注意を促し、また先生同志でも注意しあっていたことは今までによくあったことである。今度の問題にしても「今にはじまったことではない。ただそれがとうとう明るみに出ただけである」と言っている在校生も多くいることに注意しなければならない。しかもそんなことをする先生方もだいたいきまっているようで、日頃生徒のうわさになるところとなっていた。

そういうときに起ったこの事件はまた反面先生のよき教訓となったともいえよう。現に教職員の間では相当、反省の色が濃いことは事実である。がしかし、前にのべたような問題の漏洩がよく行われるのはやはりあの戦災から今日までにつくりあげてきた苦労を忘れ、心の緊張がだんだんゆるんできたのではないだろうか。そういう点では生徒にしても先生にしても今度のことは精神のゆるみをひきしめるひとつのムチともなったであろう。わざわい転じて福となるように、これを契機として教職員の中で、今後入学試験にかぎらず、学校内での普通の試験でも公正を欠くようなことがまったくなくなってこそ、先生としても生徒、ひいては社会全体にわたって申しわけがたつわけであろう。「やっぱり土佐高だった」といわれるようになりたいものである。そのためには生徒と先生の間で自覚をもち土佐高という大きな家庭のもとに一致した協力が望まれるわけである。そうなるためにも我々はこの事件の解決にあたって協力できることがあれば、おおいに協力し、この不名誉を取り返すべく明るい学園の充実への道をあゆんでいきたい。

先輩

愛校心が問題

信頼できる先生を

第一回卒業生　同窓会東京支部長　佐藤秀樹氏の話　母校にとってざんねんな事件がおきたものだ。わたしの土佐中時代には、先生はみんなから信頼されていた。そして学校は一つの家庭のようだった。いくら生徒数がふえまた経営上の問題はあっても、信頼のおける先生をそろえることができないわけはないと思う。こんどの事件は先生の道義心の問題だが、愛校心の問題でもあることに注意してほしい。校長が五月十三日に上京する予定だから、そのときに在京同窓生有志をも交えてぜひ話し合いたい。【東京支局】

この機会に自粛

第二回卒業生　同窓会副会長　細木志雄氏の話　母校始まって以来の不祥事でまことに残念に思っている。過日大島校長に会ったときの話では、洩れたのは口頭試問の問題だけで、しかもそれは試験施行にあたり、問題を変更したから合否には関係ないとのことだからこの点は、不幸中の幸と安心している。筆記試験の問題も洩れているから再試験をとの声もあると聞くが、私は前述のように聞き、また信じているからその必要はないと思う。責任者（問題を洩らした人）は自発的に善処して欲しい。その方が精神的には救われるだろう。責任者が明らかにならないときは、教職員全体の責任として何等かの措置をとらねば社会は納得しないだろう。とにかくこれを機会に学校全体が自粛してもらいたい。

精神にゆるみが

第二回卒業生（特に名を秘す）某氏の話　問題がどのようにして洩れたかがはっきりしないのではっきりしたことは云えないが、もし噂どおりに先生の手によるものであるならば、それは言語道断のことだ。厳正な立場にあるべき教育者としては許すべからざる行為である。世間にも云われているとおり、緊張がゆるんでいたことがおおいに影響しているだろう。

許せない行為

第九回卒業生　高知新聞論説委員　中島曉氏の話　土佐中の卒業生としても、一社会人としても、このたびの事件には頭を悩ましている。入試問題をもらすというような教育者として、最も恥ずべき行為をした先生がいるならまことに遺憾だ、たしかに現在の社会道義は頽廃しているが、神聖であるべき教育までおかされるとは恐ろしいことだ。いま一つの問題は、何故学校は、試験を中止しなかったかということだ。もし試験中でも中止すべきだし、試験前ならなおさらのことだ。

問題の傾向はよい

県教委会の筆答問題批評

本年度の中学の入学試験は、筆答試験をおこなったという点で本県の教育界に大きな話題をなげかけたが、このほど高知県教育委員会に問題をみせ、その批評を依頼したところ、次のような回答があった。これは細木教育委員会次長と指導課の各科の担任係員によってもたらされたものである。

綜合的に問題をみた場合、あらゆる教科にわたって問題を提出している意図はよい。しかし少し量が多すぎるきらいがある。

細部について云うと

①互に関連している問題があるので最初の問題を間違えたら最後まで間違ってしまうから点数が実力以上に開く懸念がある。

②時局の問題では市部と郡部とで差のあることを考える必要がある。

③数学、理科の問題にすこし程度の高いものがあるように思える。基本的には筆記試験に反対だ。というのは筆記試験をおこなうことは多くの面から生徒の学力をみることのできる一方法としてうなずけるにしても、準備勉強を助長する結果となる。また筆記試験は刺激が多いなどが主なる理由である。

高知市内の小学校では準備の勉強はしないことに申し合わせたそうであるが志願者の生徒について調査すると学校も準備勉強をしたという生徒が半数以上おり、この点について教育委員会は「特に先生にたのんでやっている生徒はよくありますが、それは学校側が主体になってやるのではなくて父兄に押されているのではないでしょうか。」と語っている。

現役京大わずか一名

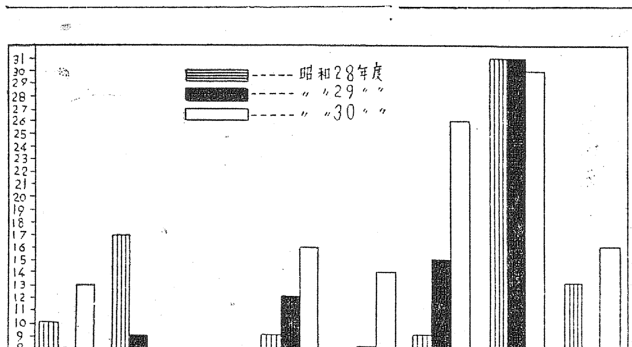
めざましいのは女子の進出

今年度の京大合格者は現役からわずか一名という古今みぞうの低調さであったが全体的に見ると平年並である。しかし浪人の進出は昨年に比べて目ざましいものがあり合格者数の約四〇%をしめている。

教務の語るところによれば京大全滅の原因としては、入試問題はやさしすぎるくらいやさしかったのであるが大部分の者は特に英・数・国に重点をおいて勉強していたので、しぜんに社会、理科がおろそかになりその結果勉強をしたものとあまりしなかったものとの差が小さくなり、英・数・国にあまり自信がなくて社会・理科に重点をおいた者がおもわぬ得をしたこと。もう一つの原因として順位の中層の者の勉強が不十分であるためこのような結果をまねいた。この対策として今年度は二学期から補習授業や模擬試験などを徹底的に行い学習の充実をはかるつもりだそうである。

そのほか特に著しい傾向として女生徒の躍進があげられる。この原因は昨年度の女生徒は全体的にまじめでありスタディの時間はいつも有意義にすごしていたことであろう。

つぎに最近三年間の主要大学別に入学者数をグラフに表わしてみる。



附属中が圧倒的！

高校一年の編入生

こんども高校一年は前年度と同じように一組六〇名の五組に編成され、中学校のような疑うべきこともなく、新らしく三八名が入学した。

高校受験者総数百二一名のうちから選ばれたこの新入生の中には、例年のように附属中学からの入学者が十名で圧倒的に多く、県外生徒の受験者四名のうち二名が合格した。また今年度は郡部からの合格者が多く十九名で、市内は二名少くなり十七名となっている。

授業料値上げ

講堂建築の未払い資金やその他の理由で今年度から再び授業料の値上げになり今までの千円よりも百円増加して千百円となった。これについて学校側では次のように語った。

たびたびの値上げで生徒の間では不満に思っている者もいるかと思うが、現在のデフレの時代にあって不景気が続いておりその影響で学校運営が困難なうえに講堂の未払金は五百万円も残っており、これをどうしても払ってしまわねばならずまた図書や化学および物理の実験用具などの充実のためにやむなく値上をしている状態である。もう一つの理由としては普通であればもう二万円は払わねばならないのにまだ一万円程度しか払うことのできない先生方の給料を少しでも増すためである。東京や大阪などの私立の学校では千二百円から千五百円のところがあり、それに比べれば本校はまだましだといえよう。

らくがき

〃天災は忘れた頃にやって来る〃とは、本県出身の寺田寅彦博士の有名な言葉である。人は災のあったときしばらくはその災に対していろいろと考え、頭をめぐらすが、まもなく〃人の噂も七十五日〃的に忘れさってしまう▼本校の歴史をふりかえってもそれが言えるであろう。いままで最も大きな天災は戦争のために校舎が全焼したことである▼私立ゆえに多くの悩みをもったものだ。大島校長をはじめ、諸先生方、振興会、同窓会の多大の尽力で、校舎は元通りに建った。講堂もできた▼戦災のあとなまなましいバラックから不完全ながらも木造へそして、立派な講堂へと戦災のあとが消えて行くにつれて人々、いやわれわれは心に緊張感をすこしずつ失っていったのだ▼そこに起ったものは、天災というよりも人災だが、入学試験の 漏洩という 事件だ。問題が問題だけにはなはだセンセーショナルに一般新聞は報道した▼試験の問題が事前にわかっていたとなると、世間は自分までが試験問題を知っていたかのように騒ぎたてる▼じっさい聞くにたえないようなことが巷間には平然として語られている。が、このような世間の噂などはそれこそ〃七十五日〃的に人々の口には上らなくなるだろう▼しかし、もしかりにも、学校側がこれに対し何らかの形で措置を講じねば、世間の人々は口にはしなくても、土佐中の試験にはかってこうした事件があり、うやむやのうちに済ました、だから、いまでも不正なことがおこなわれているに違いないという考えは彼等の頭からはなれないであろう▼今のところ、この問題に関しては解決の糸口がみえていないが、この状態が長く続くとなると、前に云ったようなことになるであろう▼だから学校は、この問題に関してなるべく早く、はっきりした措置を講じねばならない。うやむやのうちに済ますことなどはもってのほかである。（K・T）

メガネ専業
イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町　電話998番

土佐名産
かまぼこ
青立石蒲鉾店
本店　高知市新京橋（T．179）
支店　高知市南はりまや町（T．4148）

新刊書籍雑誌
参考書専門書は當店へ
金高堂書店
郵便局東隣
TEL三八六四

制帽は校風をあらわす
土佐高生の店
元田帽子店
高知市帯屋町二丁目
TEL　2591

既製服の値段で注文服のできる店
黒紺サージ各種取揃えて有ります
学服協同組合
入交義兵
本町二丁目中の橋電停北側
電話２７４４番

大学受験と土佐高生活

著しい浪人の進出

対談　入試戦線に異常あり

【東京支局】大学入試もすべて終り本校生の行方も決った。本紙では東京支局顧問、読売新聞教育部の吉川美雄氏（本校16回生・東大国文科卒）と早稲田大学政経学部の岩谷清水氏（27回生）に今年の進学状況を検討しながら土佐高のありかたといったものについても話し合ってもらった。対談中の受験生の話は後で加えたもの。（予備校生のカッコ内は受験した大学名）＝横山、中城記者

司会　今年は土佐高からも百人あまりの浪人が出たわけですが、有名大学入学者の浪人と現役（新卒）との比率はどの程度でしょう？

吉川　ぼくの方で調べた今年の結果を示してみましょう。

校名	新卒業生の割
東大	約三割
一橋大	二割二分
東外大	二割四分
早大	約一割
慶大	約四割

今年はとくに浪人の進出が目立ってきたようですね。現在浪人が全国に35―36万いるそうですが、この傾向はますますはなはだしくなるでしょう。したがって問題も高校程度を越すものとなるんですね早大のある学部では問題が去年よりもはるかにむずかしくなったのに、逆に合格最低点が二十点くらい上がっているそうです。

予備校生A君（早大・中大）の話　学校の実力テストで点数がよかったから自信がありました。落ちてはじめて実力がついていないことを知りました。優秀な人がたくさん予備校へ来ているのに驚いている。

岩谷　つまり「受験技術」が上達してきたということですね。実際こんなになるとぼくたちはどういう意見を出していいのかわからなくなるんです。今までぼくは『東大へ行く人はクラブ活動をなげ捨てて受験勉強一本ヤリもやむをえない。いっぽうクラブ活動もやり、ハバひろい高校生活を送りたい人は早大を受けなさい』――といっていましたが、早大もそうはいかなくなってきたんです。

吉川　このような現状に応ずるため東京の日比谷高校や戸山高校では今年から「補習科」をもうけて浪人に補習授業をやるようになったんですよ。はじめ文部省はこれに反対していたのですが、浪人が多くなり社会問題となってきたのでやっと認めたようです。

岩谷　その補習というので思い出しましたが土佐高でも朝授業の前と放課後に補習をやっているそうです。もちろん現役に対してですが。しかしいろんな生徒に聞いてみると単に時間的にサービスしているのみで、内容がないというような先生もいるらしいんです。ぼくはいつも言うんですが、つまらぬ授業なんかやめて、生徒を帰らせて自習やらせたら、もっと効果があがるだろうと思う。時間をかけることよりも、要領よくやることだと思うんです。

予備校生C君（東大）の話　補習はどれも受けていましたが数学なんかむずかしい問題ばかりやっていたのでじゅうぶん理解できなかった。補習ではもっと基礎的な問題をやってほしい。また授業では変な人生論や雑談をする時間があればもっとくわしい講義をしてほしい。

地方大学の開拓を

實力を知ることが必要

司会　ところで今年は東大は現役浪人あわせて十三名と相当な成績なんですが、いっぽう京大はやっと三名という惨敗ぶりなんです。これについて校長のところへ京大のある教授から「来年は良い生徒を京都の方へもまわしてくれ」という手紙が来たそうです。

岩谷　たしかに、大学というと東京へという考えがありますね。まるで地方の大学へ行くのはバカみたいに考えているんです。

吉川　そうですね。土佐人の考え方は古いんです。土佐高は関西では 指導的な 高校であるはずだ。もっと地域性を発揮して、地方の 大学を 開拓すべきなのですよ。

早大生D君の話　地方の大学へといっても現在のように中央の大学とひらきがあれば無理でしょう。また今後自分の進む方向によってはどうしても中央でなくては不利な場合もあるし、それに地方の特色ある大学といっても、そこまで生徒は知らないし、学校の進学指導も二十番くらいまでには東大をすすめ、その次には京大、さらに下の者には私立、浪人はしないように、ぐらいのものですから。

岩谷　東大もいいが受けるのは進学希望者の十分の一で、他の大学を受けるのが十分の九だ。三百人ちかくも入学させておきながら「東大々々」とばかりいうのは「土佐高の看板にイツワリあり」ですよ。吉川さんは東大出だけれども……（笑）

吉川　たしかに「東大を出ずんば秀才にあらず」という考えがある。しかしこれはまったくまちがった古い考えかたなんだ。昔なら、東大さえ出ていれば課長、次長、部長、局長……というように、ひとりでに進むようになっていた。しかし、そんな官僚の時代はとっくに過ぎているんだ。

岩谷　ちょっと面白いことがあるのですが、土佐高ではこのあいだ東大合格者だけ名前を大きい紙に書いて玄関わきに貼り出したそうですよ。（笑）

予備校生C君の話　学校はよく「東大々々」といいますが東大にとれたような人はみな自分で勉強したのですよ。それに反し学校の授業にたよっていた人は落ちたようです。こんな人も合格するような授業をしなくては――。

司会　たいていの受験生は、いくつかの大学、または同じ大学のなかのいくつかの 学部を 受けているんですが、その要領について何か……。

岩谷　大学のうけ方がとてもまずいのですね。今年の実例をあげてみましょう。K君は 京大の工科を第一志望、早大の一政（経済）と一理を第二志望として受けたのですが、みんな落ちてけっきょく浪人することになったのです。早大の経済の合格者最低点が今年は七割ちょっとだったのですが、K君の得点は五割にも足りていないのです。京大（工科）よりも、第二志望にした早大（政経、理工）のほうがむしろむずかしいことを知らなかったのですね。

吉川　つまり自分の実力を知らない。したがって自分の力に応じたところを知らずに受験しいいるということになる。もっと先輩の門をたたいたりして目を広くしなくちゃあ。

岩谷　そうなんです。それで去年の夏でしたか、新聞部の主催で「先輩大学生に聞く会」というのを学校でやったのですが、生徒が集まらないのですね。先生が音頭とってやったら集ったでしょうが、生徒が自主的にやるのは権威がないらしい。（笑）

勉強を効果的に

負担でない部活動

司会　「受験勉強と高校生活」の問題になると、かならずクラブ活動というものが大きな問題になってくるようです。とくに今年は女子が多く進出したこと、クラブ活動をやっていなかった者が 多く「一流大学」へ入ったことから、今後のクラブ活動が軽視されるのではないかという心配があるわけです。この問題について……。

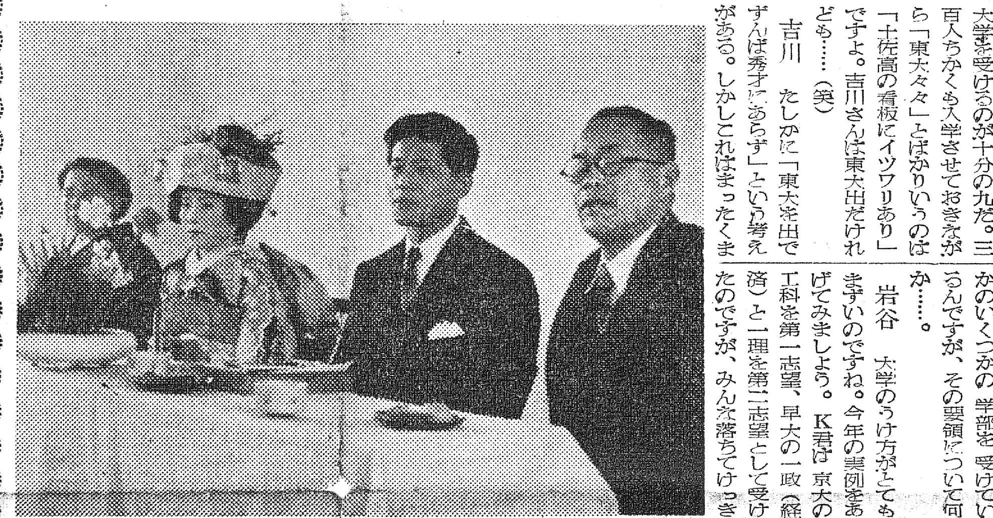
吉川　昔はぼくたちは放課後運動場へとび出して行って、自主的にいろいろのスポーツをやったものだが、今の生徒諸君はそれを必要以上にフタンになるとカンちがいしているんじゃないかな。

岩谷　高二になったとたんクラブからしりぞく人があるが、それは生徒みずから高校生活を破壊しているんです。「受験々々」といってオドかされるので、神経質になりすぎている。クラブ活動の余裕はもっとあるのではないか。クラブ活動も生かさず、そうかといって受験勉強も効果的でない。中途ハンパなんです。

吉川　受験勉強はたいせつだけれど、それは高校生活のジャマ物だということを認識しなければならないんだ。ぼくたちの時代の土佐中生はみんなコチコチで、えらい人なんか出ていない。こんなこと言うと失礼かな。（笑）ぼくみたいに新聞記者をやってる者は変り種なんだ。官立大学を出て「高文」をとる……。そういう昔のことを先生方がまだ夢みているのですね。考えかたを早くあらためねばいかん。新しい酒は新しい革袋に入れなければ……。

岩谷　じっさい、新しい酒が古い革袋のなかで、たぎっているんです。今にもさけそうなんです。このままに放っておくと今にも何か破タンが起りそうな気がしてならない。

吉川　実に危険だね。生徒の行こうとしている方向を先生方が知らないんだね。先生があらゆる面でもっと勉強してもらいたいと思う。



声

約一ケ月にわたるはげしい大学の入学試験も終った。京都府立医大の四十倍という競争率をはじめ、狭き門への志願者は年を追うにつれて増加している。そして浪人の激増は予備校時代を作りつゝあり、六三三四の制度を破壊しようとしている。

本校の主なる大学への入学の状況をみるに東大の十三名は本校初の女子合格者二名も含めて良い成績ではあったけれども、京大及び早稲田、慶応、中央などの私立大学への入学はじつに悲惨なものに終ってしまった。特に京大に関しては目もあてられない。なぜこんな結果に終ってしまったかを私の経験から諸君にお知らせしよう。

まず一番にあげなければならないことは、浪人の進出にともなう現役の敗退である。早大の政経あたりでは八十％以上が浪人である。国立大学でも同じことがいえよう。一年あるいは二年の苦しみをなめている浪人が甘い考えの現役をおしのけて入学することは当然である。

志望校の実情を知れ

二番目には自分の受験する学校の内部の実情を知らなかったことによる。

昼間、夜間合せて十もある学部では、内容も合格の困難度も異ってくるのは当然のことであるだから自分の力にふさわしい学部を選ぶべきである。たとえば早稲田でも四十倍の競争率から三、四倍まであることを知らねばならない。高知のような田舎にあってはこんなこともわからないし、先生方にしてもそこまで手がとどかないのが実情なのである。なんとなく受けたのでは、合格するわけがない。これは特に強調しておきたい。

三番目には土佐高の単位制や選択制の問題である。高三になって図画や書道を選択したり、受験科目にない解析を選択しているのはかんがえものである。とにかく今の単位制や選択制については改善の余地があるようである。というのは私学の文科系を受験する者は解析を選択しなくてもよいように思う。

さて、それらに対する対策であるが、最初にのべた浪人の進出の問題に対しては現役は浪人以上のはげしい 勉強が 必要である。

また受験のためのいろいろなことがらについては、なによりも志望校に在学している先輩と連絡を取ることが一番である。受験雑誌をそのまま信用したり友達同志で勝手なニュースを持ちよることなどはつゝしむべきことである。だから例年夏休みにある「先輩大学生に聞く会」にでることなどはもっとも有意義であろう（T・M早大一年）

〃ママ横をむいてて　パチンコするから〃

高三修學旅行

高校三年は、四月十一日から十九日まで九州一周の修学旅行に行ったが、以下はトピックスでつづる修学旅行紀行文。

十讃線は例の通り煙に悩まされどおし。高松から関西汽船ルリ丸に乗る。ところがこの船、大阪―高松間で若い女性が身投げ自殺をして一時間の延着という、因縁つきのもの。船室は換算してみると、一畳に五人？くらいだから徹夜組も多い。

別府港に入ると、アベックのボートがチラホラ。

高崎山の猿は少しも愛嬌がない。エサの落花生だけとってさっさと住家にかくれてしまう。猿の方がカメラをふりまわす人間を見物しているようなものである。

さて宿屋におちついて、部屋をわり当てられる。まず先生の室を捜す。近い者はわがみの不運をなげき、遠い者は喜びの声をあげる。おかしいのは宿屋の女中さんである。ふざけ、ひやかす男生徒の方が、礼儀正しい女生徒よりもてるのだから。

南の国、宮崎の青島には熱烈なロマンスが伝わっている。すなわち彦火火出見尊（ヒコホホデミノミコト）と豊玉姫（トヨタマヒメ）の恋愛がそれである。その二人を祭った青島神社は縁結びの神として知られている。そっとビロー樹の葉におみくじをくゝりつけ、未来の幸福を願った人もたくさんあったとか。

修学旅行とは、名の如く学を修める旅行である。そこで社会学研究とパチンコ屋によく通ったものである。しかし、やはりなんとなく気がとがめるのか〃お母ちゃん〃こと片岡満先生にそっとさゝやく生徒もみかける。「ママ、横をむいてゝ。パチンコするから」と。

霧島の温泉では、沖先生が温泉に入っておられて、湯をわかそうとしたがコックが二つあってどちらが湯でどちらが水かわからない。適当に両方を廻していると、どうまちがったのか凄くぬるくなってでるにでられなくなった由。

また、それを他の先生方が食事をいっしょにするために待っておられたので温泉の湯どころか、夕ご飯がすっかりさめてしまったそうである。

これも沖先生の話で沖先生には気の毒であるが、雲仙の宿屋でのオハナシ。雷がゴロゴロとなってとうとう落雷。その瞬間宿屋の中はまっ暗。停電なのである。ちょうどそのとき温泉にはいっておられたのが沖先生。大さわぎをして着た着物がウラガエシか、前後反対であったかは、想像にまかせます。

「池田々々」とマイクの声ががなりたてると同時に、あちこちのデッキから白線が飛びだしてゆく。もちろん、名物そば屋に行くのである。一杯、二杯とたいらげ、スリルを味わっている若人の顔には旅の疲れなどみられない。発車のベルで一瞬にして、あとにはドンブリだけがころがっている。

これで修学旅行のすべての活動が終ったのである。後は静かに故郷入りを待つばかり。

九州はほんとによかとこばってん。皆さんも一度は行きなんせ。（M・M）

ちょっと失礼

富田先生の巻

〃富田先生に会うのは吉田茂に会うのと同じほどむづかしい〃とは先生に会いに行った人が口をそろえて云う言葉です。と云っても何も富田先生の御気嫌が吉田茂のように悪いわけでもなく、カメラが嫌いなわけでもありません。まして護衛の警官がついているわけでもありませんよ。要するにふだんは多忙の身であらせられるのです。新聞部員もその例に洩れず二度三度すごすごとひきさがったのでした。

その富田先生のお宅は小津高校の北、城北中学の南、小高坂小学校のすぐ東と、学校にかこまれて建っています。風通しの良い二階の部屋の窓からは、高知城や新緑の山々がすぐ近くにみえます。

先生の奥さんのお話によりますと、先生のお帰りはいつも高知城の天守閣がくっきりと夜空にうかぶころだそうです。「そんなに遅くまで何をしておられるのかって？野球。そう野球の練習で遅くなられるんですよ」

富田先生といえば、まず何を置いても野球のことから話さねばなりません。先生御自身も先生と野球を切りはなして考えることはできないと認めておられるようです。

背廣は性にあわんネ

野球と文法と説教の虫

野球に関係のある写真がイッパイあります。本校中学野球部の発展ぶりが手にとるようにわかります。「これは中学の野球部の草分け時代で部員が十人かそこらだ。このころは試合をやったら必ずまけていたね。練習に練習をつんだおかげで今はもう敗けたら不思議に思われるようになっているけれども、この苦労がみのったんだね」と先生独特のくちぶりや調子で話されます。また新聞のスクラップがはや三冊もあります。それを見て語る思い出話は、いつはてるともしれず長く続きます。

「いくら勉強ができても体が弱くては駄目だね。だから何かスポーツをやることは必要だよ。僕にも男の子があったら野球をやらすんだけど」と残念そうにおっしゃる先生には、男のお子さんがないのです。でもかわいいお嬢さんが二人いらっしゃいます。いまもお母さんの膝の上で話を聞いています。

学校での先生は〃文法の虫的存在〃であることは衆知の事実であるが、先生の蔵書をみても、それがはっきりわかります。およそ文法と名のつく本なら何でもあります。文法の本を買いたい人は相談に行くとよろしい。なにしろ実物がずらりならんでいるんですからね。

またその本をくわしく覚えていらっしゃる事には奥さんも驚かれます。何百冊もある中の一冊を本棚の上から三段目の右からエート、八冊目の黄色い表紙の枕草子の解釈という本をとってきてくれとおっしゃるんだそうですから。

先生が背広を着ておられるのを何回みたことがありますか。答はおそらく〃無し〃か、あっても五回以内の人が多いでしょう。なにしろ一年中で背広を着るのは入学式の日と卒業式の日だけなんだそうです。だから背広は少ししかもっておられないがジャンパーだけは他の人にまけないそうです。背広はなんとなく性にあわんから着ない由。授業中はめったに笑われませんが、ほんとは大変なユーモリストでいらっしゃるんですよ。映画も好きでモッパラ西部劇とチャンバラ映画。なかでも中村錦之助の映画は大ていみるそうです。

でもその反面たいへんお説教がお好きでいらっしゃいます。たとえば「新聞部はもっと校内へ掲示板なんか作ってだねェ、各部の動きや成績を報道したらどうだい。もっと頭をはたらかして頭を」というふうにです。もっとこんなことをかくと新聞の出た二、三日後に職員室へよばれて説教をくらうかも知れませんが。

先生が御愛用の野球帽のとなりに、貫禄のついた戦斗帽がかかっています。戦争で南方へ行っていた時の記念品だそうです。「僕が南方へ行っていたとき、外国人が問うんだ、この仕事はいつまでかかるんだとね。僕たちはもうちょっと待って下さいと云うと始めは本気にして待っていたけど、後の方になると、ちょっとと云うと、よろしい半日待ちましょうと云うんだ。いや、これは何も君たちがちょっと失礼で長いことかかっているからってあてこすりじゃあないぜ」と痛烈にやられたので、記者はホウホウのていで退散せざるをえませんでした。（S・T）

【写真】お住居を背景に富田先生の御家族

三枝先生の御結婚

本校の三枝先生が四月三日、中央公民館で結婚式を挙げられました。新婦は中学校主事の河野先生のメイにあたられる河野和子さん。仲人をつとめられたのは岩井教務御夫婦。本校からは岩井先生のほかに大髙校長、河野先生、町田先生、それに同じ下宿にいた高一の革君の五人が参列しました。

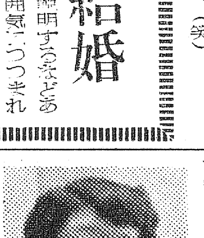
岩井先生が「新郎の三枝寛宣君は山梨県の出身で、東京理科大学……。新婦の……。」と二人を御紹介。そして事の起りをユーモラスに説明するなどあって和やかな雰囲気につつまれて式は終りました。

式後、さっそく御感想は？とお尋ねすると〃そう、あわてるなよ。式がおわったばかりじゃないか、でも、あんまり落着いていると、感想なんか忘れてしまうかな〃と幸福そうに語られました。

外は折からお城まつりで、青空にひびく煙火花火も先生の新しい門出を祝福しているようでした。

新任紹介

こんど新たにお二人の先生が赴任してこられた。一人は女の先生で体育を担当しておられ、あとの一人は男の先生で数学を担当しておられる。お二人の先生の御趣味についてのご紹介をしよう。



西田晃子（二十才）

先生の趣味はスポーツ、お華、映画、読書などだそうです。出身校は日本女子体育短期大学です。本校女生徒に対しては案外接しやすいそうで、女生徒はおしとやかさが第一ですがやはり生徒らしく活発さがあってほしいという御感想です。

ちょっと失礼な質問ですが、結婚は恋愛と見合とどちらをお好みですかとおたずねすると、まだそんなことに関しては考えたことがないそうであります。

松尾功祿（二十二才）

先生のお住居は山田の西町にあります。出身校は早稲田の第一理工学部の数学科を御卒業。趣味は音楽特に古典がお好きで作曲や演奏もなさるそうです。そのほか天文、ボート、柔道、また読書は人生や宗教に関する書物がお好きであらゆることを考え工夫することを好まれ、今どきではまれな多能多芸なかたでなかなかの思索家であります。

団体、全国第四位

第六回　国際学童水絵展

朝日新聞社、日本赤十字社主催の第六回国際学童水絵展に本校中学高校は入選作品四四点で第四位になった。（昨年度は第八位）一位は広島県福山市南小学で六〇点、二位は愛知県沢上中学校の五九点入選である。作品審査は昭和二十九年十一月から十二月にかけて東京の近代美術館で行われ、今泉篤男氏等十数名の慎重な審査のもとに応募作品五万五百三六点のうち特入選五百五四点、佳作入選一千四百九四点が決定、この三月から東京、大阪、京都で入選作品展覧会が開かれている。

また個人としては中三Bの寺谷美晴さんが八点入選の第一位、高一Hの西川興亜君が第五位で四点の入選となっている。

鎭西先生談　本校からは三百余点が出品されたがつぎからは生徒全体が出品したらよいね。絵は少年少女らしい純真な無邪気な気持が端的に現わされなければならないが、その点今年は非常に個性を発揮した独得な作品も出ていたが、個性を重んじる者は一部の者でしかない。

吹き矢

◇…「年々歳々人同じからず」のごとく年ごとに校門から送り出されてゆく生徒は後を絶たない。これは古今東西において不変の真理なのである。それは悲しい別れの卒業式の日に起った似ても似つかない珍妙な放言、たぶん祝辞のつもりであろうが……。

◇…諸君は覚えているかな？文部大臣の祝辞？を。忘れた人のために教えよう。えんえんと続く流麗美文の中味の大半は「……は私の政策の一端であります」なのである。諸君はこの言葉を聞いた時にどんな感を受けただろうか。たぶん一種の「イヤラシサ」を感じたたろう。政治家というものはなんとあさましいものヨ、と思った者もいるかも知れない。これは立派なふりそでを着て靴をはいて大路を歩いて自分だけでえつにいっているのとそっくりである。

◇…今後こんな人からおたがいに祝辞なんて言ってもらいたくないですネ。

カメラはキタムラ
堺町 Tel.860 3154

土佐高の店
各種萬年筆
白亜堂
高知市帯屋町
TEL 2473

新刊書と雑誌
参考書 辞書類　明文堂
高知市堺町 TEL 295

有限会社 坂本学生服専門店
高知市帯屋町下一丁目

（古本は誠実で安い）井上を
古本売買 井上書店
高知市帯屋町中ノ橋 TEL 3921

明るい技術の店
成岡時計店
土佐高西門通り
高知市梅ケ辻 TEL 4116

毛糸
フルハロー
イーラ・ニー
ハニトレボキボニー
ータン チク
バビボセクアスニピ
総理府統計局指定店
高知通運物資部指定
高知県庁物資部指定
南海化学物資部指定
應美屋
高知市帯屋町一丁目三六
TEL 3364

ネツクレース
イヤリング
ブローチ
珊瑚
ならびに装身具いっさい
池田珊瑚店
高知市帯屋町下一丁目
TEL 3268

土佐名産
鰹節
削節
酒盗
干魚
土佐一鰹節店　高知市帯屋町2丁目 TEL.1085

於全国菓子大博覧会
農林大臣賞受賞
皆様のパンと菓子の店
ヨシモト製パン所
高知市大橋通り公設
TEL 795